



感染症発生動向調査速報

2026年 第16週

令和8年4月13日 ~ 令和8年4月19日

送信先 感染症週報登録関係機関 担当者 様 送信日 令和8年4月23日(木)

【管内情報】

定点種別	疾病	注意報開始値	警報値		報告週					
			開始	終息	11w	12w	13w	14w	15w	16w
インフルエンザ COVID19	インフルエンザ	10	30	10	2.67	1.67	0.33	0.67	0	0.00
	新型コロナウイルス感染症	-	-	-	0	0	0	0	0	0.33
小児科	RSウイルス感染症	-	-	-	0	0.5	0	0	0	0.00
	咽頭結膜熱	-	3	1	0	0.5	0.5	0	0	0.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	0.5	1	0.5	0	0	0.00
	感染性胃腸炎	-	20	12	7	1	0.5	2.5	2.5	3.50
	水痘	1	2	1	0	0	0	0	0.5	0.00
	手足口病	-	5	2	0	0	0	0	0	0.00
	伝染性紅斑	-	2	1	0	0	0	0	0	0.00
	突発性発しん	-	-	-	0.5	0	0	0	0	0.00
	ヘルパンギーナ	-	6	2	0	0	0	0	0	0.00
	流行性耳下腺炎	3	6	2	0	0	0	0	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	-	1	0.1	0	0	0	0	0	0.00
	流行性角結膜炎	-	8	4	0	0	0	0	0	0.00
基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	無菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
急性呼吸器感染症	急性呼吸器感染症(ARI)	-	-	-	22.3	19	15	16.3	13.7	13.7

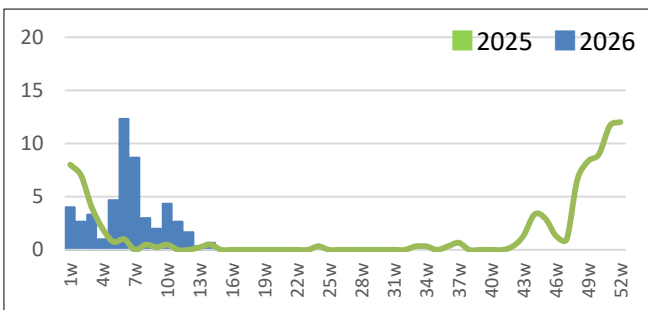


図1 インフルエンザ発生状況(定点当たり)

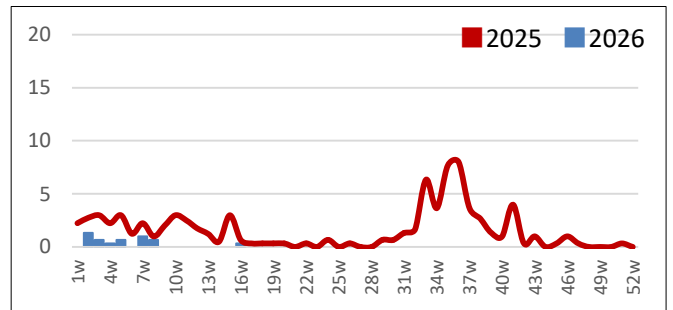


図2 新型コロナウイルス感染症発生状況(定点当たり)

【通信欄】

〈 麻しん(はしか)及びゴールデンウィークを利用した海外渡航に関する情報収集関連サイト 〉

■ 厚生労働省ホームページ「麻しん(はしか)」

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html

■ 厚生労働省ホームページ「海外へ渡航される皆様へ」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou18/index_00003.html

■ 厚生労働省検疫所ホームページ FORTH(For Travelers' Health)

<https://www.forth.go.jp/index.html>

■ 厚生労働省ホームページ 海外渡航者向け 啓発ツール

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou18/index_00003_keihatsu-tools.html

(問い合わせ)長崎県五島保健所 企画保健課 TEL0959-72-3125 担当 馬郡、福本

全国・県・五島の発生状況はホムロジ参照 <https://www.pref.nagasaki.jp/section/gt-h-kikaku/>

〈 麻疹に関する情報 〉

県内でも今年に入り、2例目（何れも長崎市保健所管内）の報告があります。全国的にも2019年以降、2番目に高い水準の患者数です。GWで人の出入りや交流も増えますので、ご注意ください。

麻疹の感染経路は、空気感染・飛沫感染・接触感染の3つで、感染力が非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症すると言われています。ワクチン接種が有効ですので、定期接種（1歳児、小学校入学前の幼児）に努めましょう。なお、今般、発生しました東京都内で麻疹の集団発生について、東京都ホームページの情報を下記に掲載しますので、ご参照ください。

【 東京都ホームページ 2026年4月21日 公表情報 】

令和8年4月9日（木曜日）に、都内で麻疹患者（検査診断例）の発生がありました。

管轄保健所において疫学調査を実施し、複数の有症状者が確認され、検査の結果、複数名の方が麻疹と診断されました。現在、管轄保健所において接触者の健康観察を実施しています。

麻疹は感染力が強く、昨年からの国内での報告数が増加しており、海外渡航歴のない場合も感染が確認されています。麻疹に対する免疫を持っていない人が、感染している人に接すると、ほぼ100%の人が感染します。

体調が悪い場合、特に発熱している方は外出、移動、人に会うことを控え、自宅等で療養してください。麻疹を疑う症状があり医療機関を受診する際は、必ず事前に受診先医療機関にご連絡いただき、公共交通機関の利用を控えて、医療機関の指示に従って受診してください。

1 発生状況及び概要

- | | |
|-------------|--------------|
| (1) 施設概要 | 新宿区内の小学校 |
| (2) 患者数 | 児童・教職員18名 |
| (3) 年代 | 10代、40代 |
| (4) 主な症状 | 発熱、発しん等 |
| (5) 海外渡航歴 | なし |
| (6) ワクチン接種歴 | 1回以下2人、2回16人 |

2 対応状況

現在、管轄保健所は関係機関と連携し、接触者への連絡、健康観察、有症状者に対する検査等を進めるなど、必要な感染拡大防止策を講じています。

当該学校では、学年閉鎖等の対応を実施しています。

3 その他

本情報提供は、次頁以降の感染拡大防止に関する情報提供と注意喚起のために行うものです。報道機関各位におかれましては、患者、患者家族及び関係者等の個人情報、関係する事業所の情報について、人権への配慮及び、プライバシー保護の観点から、本人等が特定されないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

（都民の皆様へ）

麻疹は感染力がきわめて強い感染症で、典型的には、感染すると約10～12日の潜伏期間の後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。発症前日から周囲への感染力が生じると言われています。

麻疹は予防接種で防げる病気であり、ワクチン接種は個人でできる有効な予防方法です。麻疹の定期予防接種（第1期：1歳児、第2期：小学校就学前の1年間）をまだ受けていない方は、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。手洗いやマスクだけでは、麻疹を予防することはできません。ワクチン接種によって体に免疫の備えができていると、ウイルスを早期に抑え込むことで、発症を防いだり（発症予防）、麻疹にかかったとしても症状が軽く、発熱等の症状の強さ、肺炎や脳炎といった重い合併症のリスクを下げたり（重症化予防）することができます。

麻疹は昨年からの国内での報告数が増加しており、海外渡航歴のない場合も感染が確認されています。体調が悪い場合、特に発熱している方は外出、移動、人に会うことを控え、自宅等で療養してください。海外に渡航し、帰国後3週間以内に発熱や発疹などの麻疹を疑う症状がある場合は、かかりつけ医または医療機関にまず電話で相談してください。受診の際は、必ず事前に受診先医療機関に海外渡航歴及び麻疹の疑いがあることを連絡の上、公共交通機関の利用を控えて、医療機関の指示に従って受診してくだ

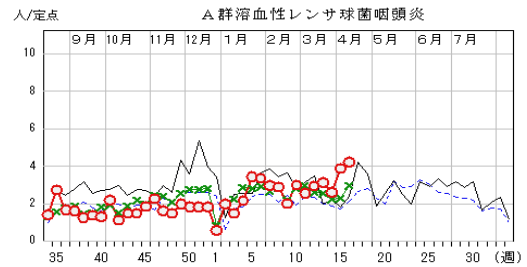
長崎県感染症発生動向調査速報(週報)

2026年第16週 2026年4月13日(月)～2026年4月19日(日) 2026年4月23日作成

☆定点[※]報告疾患(定点当たり報告数の上位3疾患)の発生状況

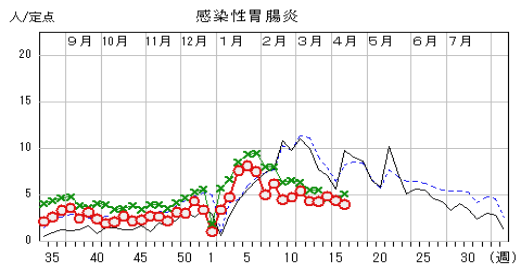
(1) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第16週の報告数は131人で、前週より11人多く、定点当たりの報告数は4.23であった。
 年齢別では、7歳(19人)、3歳(17人)、10～14歳(16人)の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所(11.75)、西彼保健所(6.67)、県央保健所(5.40)であった。



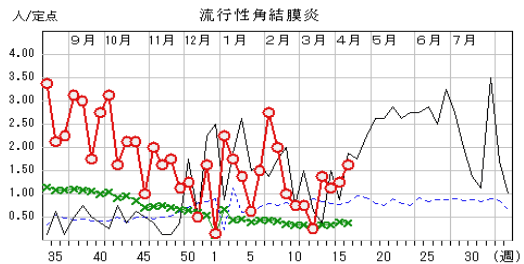
(2) 感染性胃腸炎

第16週の報告数は122人で、前週より14人少なく、定点当たりの報告数は3.94であった。
 年齢別では、2歳(18人)、10～14歳(14人)、1歳(13人)の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所(8.50)、西彼保健所(5.33)、県央保健所(5.20)であった。



(3) 流行性角結膜炎

第16週の報告数は13人で、前週より3人多く、定点当たりの報告数は1.63であった。
 年齢別では、70歳以上(4人)、60～69歳(3人)、40～49歳(2人)の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、西彼保健所(8.00)であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
 × 当年(全国) 前年(全国)

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第16週の報告数は131人で、定点当たりの報告数は4.23でした。地区別では、佐世保地区(11.75)、西彼地区(6.67)、県央地区(5.40)、が他の地区より多く、特に佐世保地区は警報レベルの報告数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱(高熱)、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第16週の報告数は122人で、定点当たりの報告数は3.94でした。地区別にみると、佐世保地区(8.50)、西彼地区(5.33)、県央地区(5.20)は他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【流行性角結膜炎】

第16週の報告数は13人で、定点当たりの報告数は1.63でした。地区別では、西彼地区(8.00)が他の地区より多く、警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、アデノウイルスによる疾患です。涙液や眼脂で汚染された指やタオル類からの接触感染により伝播し、小児からお年寄りの方まで幅広く罹患します。潜伏期は8日から14日で、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴います。有効な治療薬はなく、対症療法が基本となります。感染力が強いので、眼分泌物はティッシュペーパーなどで除去し、直接手で触れないように気をつけましょう。また、手洗いを励行し、洗面器やタオルを共有せず、触れた場所をよく拭くなどして感染防止に努めましょう。

☆トピックス：国内で麻しんの報告が増加しています

麻しん(はしか)は、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症で、その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症すると言われています。感染経路は、空気感染、飛まつ感染、接触感染で、感染から約10日後に発熱や咳、鼻水、目の充血といった風邪のような症状が現れ2~3日熱が続いた後、高熱と発しんが出現します。合併症として、肺炎や中耳炎、脳炎などがあり、死亡することもあります。

長崎県内では、2026年第13週、第16週に各1例の報告がありました。

手洗い・マスクのみで予防はできず、ワクチン接種が最も有効な予防法です。定期接種対象者(1歳児、小学校入学前1年間の幼児)は確実にワクチンを接種しましょう。また、海外では麻しんの流行が報告されている地域もあるため、海外渡航を計画している方は、ワクチン接種が済んでいるか確認し、ワクチン接種を検討しましょう。

麻しんが疑われる場合には、医療機関に電話等で麻しんの疑いがあることを伝え、指示に従ってください。医療機関への移動の際は公共交通機関の利用を可能な限り避けてください。

●厚生労働省 「麻しん」

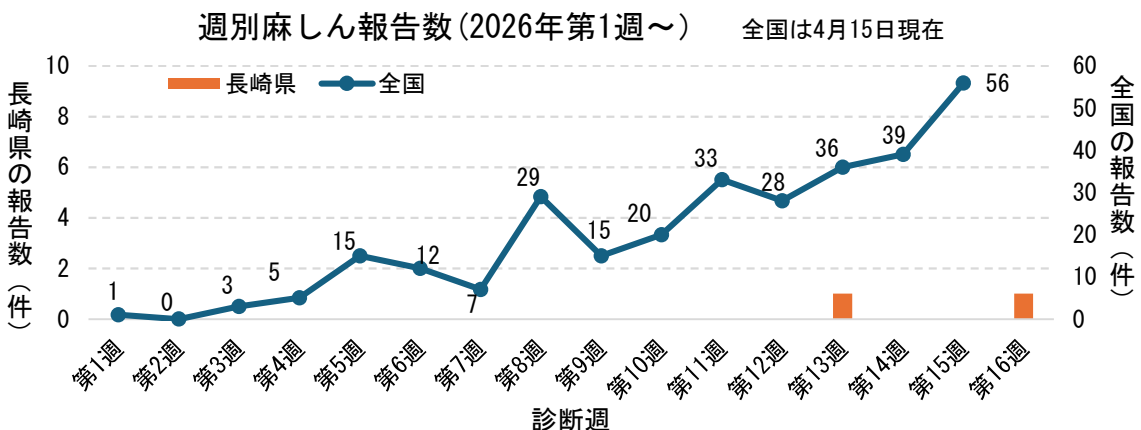
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html

●国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト「麻しん」

<https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/measles/index.html>

●国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト「麻疹 発生動向調査 速報グラフ 2026年」

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/diseases/measles/graph/2026/index.html>



☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。春から秋（3月から11月）にかけてはマダニ等の活動が活発になり、これらの感染症のリスクが高まります。

県内では、4月に入り、SFTS 1件の報告があがっています。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

SFTSに関しては、近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

●厚生労働省ホームページ 「ダニ媒介感染症」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

●長崎県地域保健推進課 「ダニ媒介感染症の予防」

<https://www.pref.nagasaki.jp/doc/page-299534.html>

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2021年	2022	2023	2024	2025	2026
SFTS	6 (1)	13 (3)	13 (1)	13 (4)	12 (2)	1
日本紅斑熱	28 (4)	22 (1)	14 (1)	24 (1)	25 (0)	1
つつが虫病	14 (0)	7 (0)	15 (1)	11 (1)	2 (0)	1

※()は第16週までの発生件数

☆トピックス：海外渡航の際は、感染症に注意しましょう

麻しん（はしか）は、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症で、その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症すると言われています。感染経路は、空気感染、飛まつ感染、接触感染で、感染から約10日後に発熱や咳、鼻水、目の充血といった風邪のような症状が現れ2～3日熱が続いた後、高熱と発しんが出現します。合併症として、肺炎や中耳炎、脳炎などがあり、死亡することもあります。

海外では、日本に常在しない感染症や日本よりも高い頻度で発生している感染症が報告されています。特に麻しんは海外で流行が継続・拡大しており、これに伴う輸入感染例が報告されています。国内でも、イベント会場や飲食店、家庭、学校などで二次感染が発生しているため、海外渡航前後を通じて十分な注意が必要です。

海外滞在中にこれらの感染症への感染を防止するためには、予防方法を知っておくことが重要です。厚生労働省のホームページには海外の感染症の発生状況や予防方法に関する情報が掲載されていますので、渡航先の情報を入手し、体調管理に努めましょう。

また、帰国後に症状が出た場合は、医療機関に相談・受診しましょう。その際には、旅行先や滞在期間、飲食状況、渡航先での職歴、家畜や動物との接触の有無などについて必ず申し出ましょう。

●厚生労働省ホームページ（海外へ渡航される皆様へ）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou18/index_00003.html

●厚生労働省検疫所ホームページ（FORTH）

<https://www.forth.go.jp/index.html>

◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（20代・1名、80代以上・1名） 女性（80代以上・2名）
 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 患者 男性（60代・1名）
 無症状病原体保有者 女性（40代・1名）
 4類感染症：報告なし
 5類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症 患者 女性（60代 1名）
 梅毒 患者 男性（40代・1名、30代 1名） 女性（40代 1名）
 百日咳 患者 男性（10代・1名）
 麻疹 患者 女性（20代 1名） ※4月14日長崎市公表分

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第11～16週、3/9～4/19)

疾患名	定点当たり患者数					
	11週	12週	13週	14週	15週	16週
	3/9～	3/16～	3/23～	3/30～	4/6～	4/13～
インフルエンザ	12.18	12.53	7.80	3.49	0.92	0.63
新型コロナウイルス感染症	0.33	0.27	0.39	0.35	0.20	0.24
RSウイルス感染症	0.68	1.32	1.74	1.45	1.94	1.45
咽頭結膜熱	0.35	0.74	0.71	0.58	0.71	0.84
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.55	2.94	3.13	2.61	3.87	4.23
感染性胃腸炎	5.39	4.32	4.29	4.84	4.39	3.94
水痘	0.16	0.39	0.39	0.45	0.35	0.23
手足口病	0.23	0.19	0.03	0.06	0.16	0.06
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.26	0.06	0.06		0.16	0.16
突発性発しん	0.35	0.29	0.10	0.16	0.19	0.39
ヘルパンギーナ		0.03			0.06	0.13
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.06	0.03			
急性出血性結膜炎		0.38	0.13			
流行性角結膜炎	0.75	0.25	1.38	1.13	1.25	1.63
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎						
マイコプラズマ肺炎	0.08	0.33	0.17		0.17	
クラミジア肺炎（わん病は除く）						0.08
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		0.08				
急性呼吸器感染症（ARI）	62.16	59.00	60.16	51.08	53.29	51.29

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第16週、4/13～4/19) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.63	0.29	0.73	0.33	0.60	1.13	0.40	0.33		1.33	0.67
新型コロナウイルス感染症	0.24	0.14	0.09	0.67		0.13		2.00	0.33		
RSウイルス感染症	1.45	2.50	0.50		1.33	3.00	4.00	0.50			
咽頭結膜熱	0.84	1.75	0.17		0.33	0.20	1.00	6.50			
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	4.23	11.75	2.67	2.00	6.67	5.40	4.67	0.50			1.00
感染性胃腸炎	3.94	8.50	4.17	2.00	5.33	5.20		5.00	3.50		
水痘	0.23		0.50	0.50		0.40	0.33				
手足口病	0.06		0.17			0.20					
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.16	0.75						1.00			
突発性発しん	0.39	0.50	0.17	0.50	0.33	1.00	0.33			0.50	
ヘルパンギーナ	0.13		0.17					1.50			
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	1.63	1.00	0.67		8.00		2.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎											
クラミジア肺炎（わん病は除く）	0.08			1.00							
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	51.29	63.00	89.36	23.00	62.60	57.00	22.00	25.00	13.67	12.67	30.00